

平成中学校区小中一貫教育 研究主題等について

1 研究主題について(◎各部が連動可能)

(1) 平成29年度研究主題

「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」を身に付け、未来に向かって生きる子供の育成
～「主体的・対話的で深い学び」を通した9年間を「つなぐ」学びの実践から～

○ 研究主題設定の理由

現代的な課題を抱えた社会において、子供たちが、地域の中で学び、自らの人生や社会をよりよく変えていくことができる実感を持つ必要がある。そのため、平成中校区においても、「未来に向かってたくましく生きる「HEISEI = ふるさと」の子ども育成」を小中一貫教育目標に掲げており、今後も継承される。

また、現行指導要領において目指してきた「生きる力」の育成を目指し、昨年度までの3年間、研究主題を掲げてきた。この「生きる力」は新学習指導要領においても変わらぬ理念であり、今までの取組や成果の蓄積を生かしながら、改めて「生きる力」を変えることなくむしろ新しい視点で捉え直しながら小中一貫教育を進めていく必要がある。

これまで、平成中校区では児童・生徒の学力・体力向上、学校間交流の推進、そして、家庭や地域の連携を図ることで「確かな学力と豊かな感性を磨く」ことを研究してきた。しかし、次期学習指導要領においては、学力が知育に偏重することなく、教育課程の中でバランス良くしかも教科横断的に身に付けることが求められている。また、知・徳・体として教育課程を構造的に捉えることで、各学校の教育目標とも具体的につながり、平成中校区でめざす子供の姿が共有されると考える。

このことから、研究主題を『「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」を身に付け、未来に向かって生きる子供の育成』とした。

○ 副研究主題について

「主体的・対話的で深い学び」とは、子供のうちに質の高い学びが実現され、資質・能力が十分に育とうとしている時に生ずる学びの様相である。これは、これまでの教育実践の蓄積をしっかりと引き継ぎ、指導の工夫改善を図ってきたことを踏襲する。

新学習指導要領の下では、様々な教育活動を通した「何ができるようになるか」という観点から、「何ができるようになったか」という育成すべき資質・能力が明らかになることを目指している。

また、「主体的・対話的で深い学び」を資質・能力の3つの柱で再整理すると以下のようになる。(各教科等の目標や内容についても、この三つの柱に基づき整理される。)

- ①知識及び技能…何を理解しているのか、何ができるのか。
- ②思考力判断力、表現力…理解していること、できることをどう使うか。
- ③学びに向かう力・人間性…どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか。

さらに、平成中校区では、これまで9年間を見通した「4・3・2制」の良さを生かす教育活動が行われてきている。「つなぐ」とは9年間を通した教育活動のつながりを指し、特に4・3・2制の3に現れる小学校から中学校へのつながりを重視したものである。

このようにして、副研究主題を「『主体的・対話的で深い学び』を通した9年間を『つなぐ』学びの実践から」として位置づけることは、小中一貫教育の研究を深め改善することに寄与できるのではないかと考える。

(2) 「確かな学力」に係る推進事項

- ア 県・地区・市教育行政施策を踏まえた平成中校区小中一貫教育の推進
 - ~~小中一貫教育を核とした学校経営~~
 - 「確かな学力」を育む教育の充実
- イ 次期学習指導要領に基づく小中一貫教育の研究の推進
 - 「主体的・対話的で深い学び」の視点による学習過程の改善
 - 小・中教職員による9カ年を見通したカリキュラム作成 (H30小英語, 道徳H31中道徳)

(3) 「健やかな体」に係る推進事項

- ア 基本的な生活習慣の改善
 - 生活習慣アンケートの改善
- イ 学校・家庭・地域を巻き込んだ運動の日常化
 - 開かれた学校の推進

(4) 「豊かな心」を育む教育

- ア 「命を大切にすることを育む教育」の推進をはじめとする道徳教育の充実
 - 命の大切さやいじめ問題を考える授業公開
- イ 学校・家庭・地域を巻き込んだ生活習慣の確立
 - 開かれた学校の推進

2 テーマについて

テーマ1	<p>「資質・能力の三つの柱」を意識した学習課題を持ち、自分の考えや思いをまとめ、自分の意見を伝えたり、交流させたりすることができる。</p> <p>～「主体的・対話的で深い学び」によるカリキュラムマネジメントを通して～</p>
テーマ2	<p>お互いを信頼し合うことの大切さを理解し、よりよい人間関係づくりに努めようとするすることができる。</p> <p>～学校・家庭・地域の機能を活用した様々な活動を通して～</p>

【課題】

- ① 内容から授業改善部に量的に偏る傾向にある。
- ② 全体的に視点が広がるのではないか。(家庭・地域の連動も期待している)

3 研究主題追究のための視点

研究主題追究のための視点	研究担当組織
「主体的・対話的で深い学び」を授業交流により、発達段階を踏まえた学力向上を目指した指導方の在り方を追究するとともに、それを支える環境づくりの研究を推進する。	授業改善部
小・中学校間における教員の授業交流及び児童生徒の交流活動を通して、教員の指導力や学力向上の推進と豊かな表現力やコミュニケーション能力の向上を推進する。	交流推進部
生活面や家庭学習などにおいて、家庭と連携を図りながら、基本的な生活習慣の改善をはじめとする心と体の育成・学力向上についての研究を推進する。また、地域との連動を図り、開かれた学校づくりを推進する。	家庭連携部

4 具体的な取組(各部の具体的な取組)※複数の部が表記されている項目については

- (1) 「確かな学力」に関する内容 左端の部が主体となる。
- 小・中学校間の円滑な接続
(英語・道徳を中心とした9年間を見通したカリキュラムの作成) 授 交 家
 - 教職員の授業交流の充実(小中一貫教育ガイドブックより) 交
 - 主体的に深い学びに向かう授業の創造(中学校区で取り組む授業改善) 授
 - 小中一貫教育における学力向上(重点教科を指定した実践研究) 授
 - ノーメディア・家庭学習充実週間の取組 家
 - 家庭・地域と連動した「家庭学習の手引き」の周知と積極的な活用
(開かれた学校づくり) 家 交 授
- (2) 「健やかな体」に関する内容
- 生活習慣アンケートの実施・分析及び改善(保護者への啓発等) 家
 - 推進計画の立案(積極的な取組に向けて) 家
 - P T A や家庭教育学級での啓発 家

- 家庭・地域と連動した「運動の日常化」への取組(開かれた学校づくり) ② ③

(3) 「豊かな心」に関する内容

- 一家庭一家訓の取組とノーメディアの連動 ②
 - ・ 「早寝・早起き・朝ごはん」
 - ・ 「笑顔であいさつ・お手伝い」
 - ・ 「横断後、ニコッと笑顔でお礼」(心に届く生徒指導の関連)
 - ・ P T A や家庭教育学級での啓発
- 「命を大切にすることを育む教育」の推進をはじめとする道徳教育の充実 ② ③ ④
(授業提供は、輪番による担当校)

(4) 共通内容

- 児童生徒の交流活動の充実 ② ③
- ふるさと・コミュニケーション科の充実(読本の活用) ② ③
 - ・ 「さつませんたい学校応援団」の活用
- 「確かな授業づくり10の提言」の自校化と中学校区による共通実践 ② ③ ④
 - ・ 100点チャレンジ
 - ・ つなぎ課題
 - ・ 「家庭学習 10分×学年+30分以上」(学力向上の関連)
 - ・ 家庭学習ノート(プリント)の紹介